

令和 7 年 2 月 1 7 日

令和 6 年度 福岡県循環器病対策推進協議会 議事録

- 1 日 時 令和 7 年 2 月 4 日（火） 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0
- 2 場 所 県庁行政棟 1 0 階 特 1 会議室
- 3 出席者 福岡県循環器病対策推進協議会委員 (現地) 4 名
(Web) 1 3 名
オブザーバー 北九州市保健福祉局健康推進課 1 名
福岡市保健医療局健康医療部地域保健課 1 名
事務局 福岡県健康増進課 3 名（参事、係長、担当）
- 4 記録者 健康増進課 健康づくり第二係 能勢

5 会議記録

(1) 福岡県循環器病対策推進計画に基づく取組

事務局から資料 1 を用いて説明。

(主な意見)

○宮地委員

P3 の「AED の設置及び救急法等講習会の実施」について、本庁及び各保健所等で実施した救急法等講習会の受講者 236 人のみ挙げているが、消防でも講習会を実施しており、令和 5 年中だけでも約 12 万人が受講している。第 2 期福岡県循環器病対策推進計画にも令和 3 年中の救命講習受講者は 54, 759 人となっているため、数を確認してほしい。

⇒ (事務局) 担当課に確認の上、修正する。

「令和 4 年中の救命講習受講者は 91, 941 人」に修正。(令和 5 年消防年報より)

(2) 福岡県循環器病総合支援センターの活動報告

岡田委員から資料 2 を用いて説明。

(3) 地域包括ケアシステムとの協働のための研修会について

事務局から資料 3 を用いて説明し、意見を求めた。

(主な意見)

○後藤委員

薬剤師会としても心不全患者の退院後のフォローアップは重要であると考えている。

心不全患者は入退院を繰り返すことが多いが、入院中にベッドサイドで話を聞いて

いると、薬の飲み忘れがあると聞く（単に飲み忘れてだけでなく、飲まない（飲みにくい、飲みたくない）も含む）。服薬アドヒアランスの低下が心不全の病態の低下につながることを多くの医療スタッフに知っていただきたい。

（４）地域連携クリティカルパスの活用状況の把握について

事務局から資料４を用いて説明し、意見を求めた。

（主な意見）

○佐伯委員

産業医科大学では、北九州地区の脳卒中地域連携パスの事務局を担っており、急性期病院が 15、回復期病院が 35 程度参加している。今回は一次脳卒中センターなので急性期病院を中心とした調査であるが、回復期病院を対象とした調査は実施するのか。
⇒（事務局）まずは運用されている地域連携パスの状況を把握するため、初年度は急性期病院を対象に調査を実施する。その後、回復期等連携先の病院を対象とした調査も実施する予定。

○一宮委員長

調査方法は紙で行うのか。
⇒（事務局）メールで調査を依頼する予定。

○岡田委員

県内で運用されている地域連携パスについて、北九州市、福岡市、筑後地区のものは把握しているが、それ以外の地区で運用がなされているか把握できていない。今回の調査で、一次脳卒中センターを突破口に地域連携パスの実態を把握したいと考えている。

備考

資料４に記載している「社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会八幡総合病院」の住所について、令和６年１２月に移転していたため下記のとおり修正。

修正前：北九州市八幡東区春の町五丁目９番２７号

修正後：北九州市八幡西区大字則松 275 番地